

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○11月24日～

先週は延期されていた米国の指標なども発表され、米国の経済は思ったほど悪化していないことがデータから示されました。

心配されていた労働環境の悪化も9月の失業率が少し上昇していましたが非農業部門雇用者数は予想よりも強い数字となり、12月の利下げは微妙な状況になりました。

FRBの関係者が相次いで利下げに消極的な発言をしていることもあり、利下げを織り込んで上昇してきたリスク資産には逆風となっています。仮想通貨が大きく下げています。

さらに、AIバブルを懸念する声も増えてきていることから、年末にかけてリスク資産にさらなる調整が起こる危険があります。

為替相場ですが高市政権の財政拡張政策から円が売られる(円安)の動きが加速しています。

先週は158円に迫るところまでドル/円が上昇し、その後の介入けん制発言で下げてきましたが流れとしては円安が続く可能性があります。

さすがに160円を超える円安を放置すれば、日銀が利上げでもしない限り、円安の流れを変えることは難しくなってくるかもしれません。

米国の利下げは不確実、日本も利上げしないなら、金融政策で見ると円高になりにくい状況です。

また、日本の長期金利が上昇してきていることも心配です。

50日で終わった英国のトラス政権のように、年末にかけて金融が混乱する事態になれば高市政権も方向転換を迫られる可能性があります。

トランプ関税で春に米国の長期金利が跳ね上がった時もベッセント財務長官が慌てて関税の期限を引きのばしたように、マーケットが危機的な動きになってきた場合、日本の政策を優先することはできなくなってくると思います。

日経平均は年末までに高市トレードの前(10月初め)の水準まで戻ってくるという話がありますがドル/円相場と日本の長期金利は元に戻ってくる動きにはなっていないところが気になります。

日経平均が2000円程度下げても円安が進行するという過去にはない動きとなっています。

このトリプル安(株安・円安・債券安)の動きが顕著になってくれば日本が大きく売られるトレンドが続くリスクがあります。

先週木曜の日経平均の急落は日本の長期金利が1.8%を超えたこと(ドル/円は157.9円あたりまで急騰)で、資金の流れに異変が起きたことが原因だという話もあります。

相場が再び不安定な動きとなってきたため乱高下に注意しながらトレードしていきたいです。

27日は米国が感謝祭(サンクスギビング・デー)で祝日です。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

### <ドル／円>

先週は円安が大きく進行し、155 円を超えると 157 円台後半まで上昇しました。  
週末にかけて少し値を下げて、156 円台前半でマーケットは終わっています。  
155 円を明確に上抜けてきたことで、上昇が続く可能性があります。  
158 円を超えると今年 1 月高値の158. 8円あたりが視野に入ってきます。  
ここも超えてくると 160 円をトライする動きになりそうですが、介入警戒感の高まりそうです。  
下値は 155 円台を維持できるかどうかポイントです。  
155 円を割り込まない限り、強い動きが継続しそうです。  
155 円を割り込むと154. 5円、その下は153. 6円あたりのサポートが意識されそうです。

### <気になるクロス円>

ドル／円だけでなく、クロス円も上昇しているペアが多く、上昇トレンドが続いています。  
週足、月足ともに上昇しているペアが多く、下がっても買いが入りやすい状況です。  
ただし、先週末の金曜は日足で陰線となっているペアが多いので、週明けも下げてくるかどうかを見極めたいです。  
株価が下がっても為替相場では円安が止まらず、ドル／円が大きく下げるような動きにならない限り、クロス円も下がりにくい状況です。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

### <今週のファンダメンタル？>

日本では 11 月東京都都区消費者物価指数、10月鉱工業生産などがあります。  
米国では 9 月卸売物価指数、9 月小売売上高、9 月ケース・シラー米住宅価格指数、11 月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、10 月住宅販売保留指数、前週分新規失業保険申請件数、9 月耐久財受注、11 月シカゴ購買部協会景気指数、10 月個人消費支出(PCEデフレーター)、米地区連銀経済報告(ベージュブック)などの発表があります。  
欧州では、ドイツで 11 月IFO企業景況感指数、7－9 月期GDP(改定値)、11 月消費者物価指数、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、ECB(欧州中央銀行)理事会議事要旨などがあります。  
ほかには、ニュージーランドで政策金利、カナダで 7－9 月期GDP、9 月 GDP の発表などがあります。